

経営比較分析表（平成28年度決算）

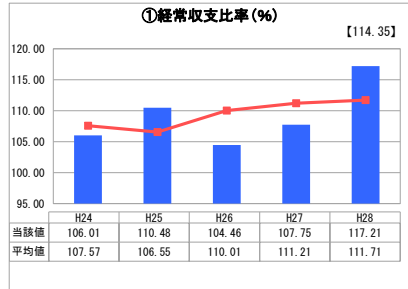
神奈川県 湯河原町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	43.01	91.62	1,742	

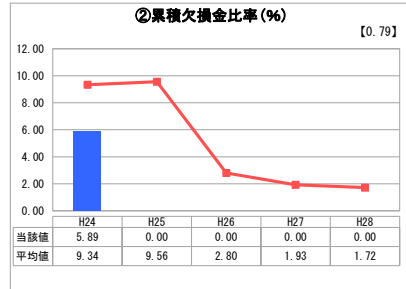
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,683	40.97	626.87
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
23,460	7.40	3,170.27

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

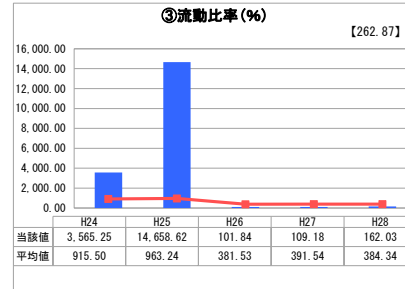
1. 経営の健全性・効率性



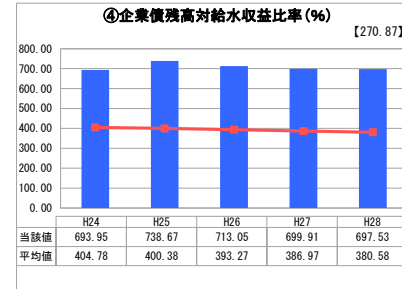
「経常損益」



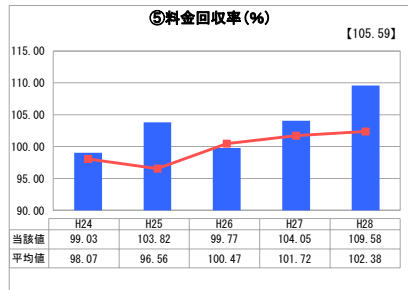
「累積欠損」



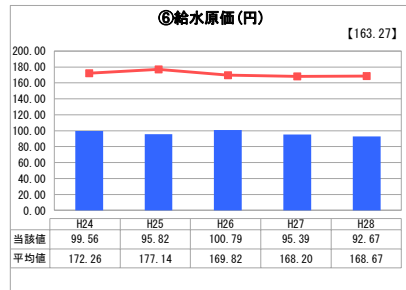
「支払能力」



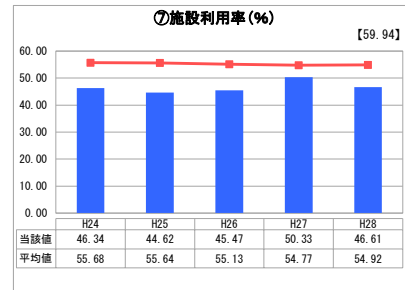
「債務残高」



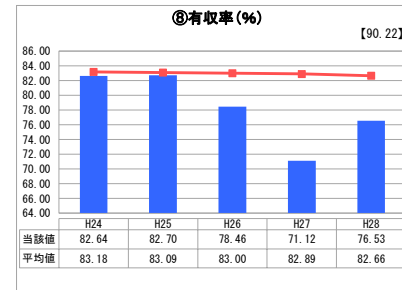
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

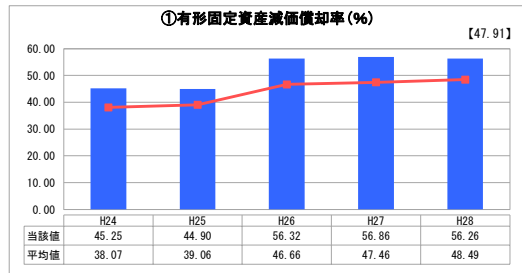


「施設の効率性」

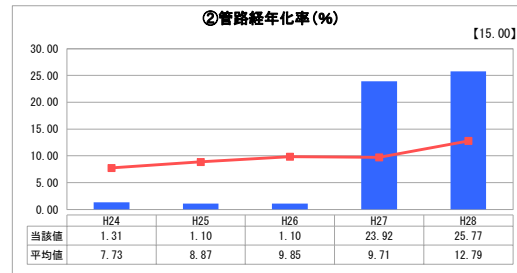


「供給した配水量の効率性」

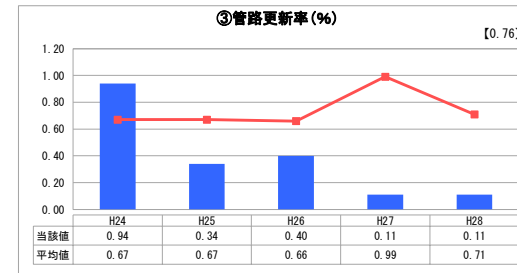
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率100%以上、累積欠損金比率0%、流動比率100%以上であり、企業債残高対給水収益比率は類似団体内で高い水準、料金回収率は100%を超える水準となっています。平成28年度に水道料金の改定を行ったこともあり、現時点の指標からは比較的健全な経営といえます。

しかしながら、決算状況を経年比較すると、給水収益の減少傾向、企業債償還金の増加傾向が見られることから、近い将来、厳しい経営状況に推移していくことが予想されます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年化率が類似団体内で高い水準になっている一方、管路更新率が類似団体内で低くなっていることから、施設の老朽化が進んでおり、必要な更新が進んでいないことが分析されます。

老朽化対策が急務な管路の洗い出し、その他施設の更新等の優先順位をつけ、施設利用率も考慮し、計画的に実施する必要があります。

全体総括

近い将来、厳しい経営状況に推移することが予想されることや、施設の老朽化が進んでいる状況を踏まえ、投資計画の見直し、漏水対策等による維持管理費削減を進めます。

また、料金収入見直しの必要性について検討を進めますが、近隣自治体と比べて企業債残高対給水収益比率が高い状況を踏まえ、料金水準、設備投資などを慎重に検討していきます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。